



そういうことが一切なくなった。バトンタッチをした後の経験はなかなかできないのではないかと思う。

我々は地下水を飲料化するビジネスを主として行っているが、私の子供のころは井戸を使っていたので地下水は全部飲めると思っていた。そしてこのビジネスを始めたが、思うようにいかず苦労をした。しかし、根気よく技術開発を続けているうちに確立され、今では水のビジネスに大きな生きがいを感じている。

国内はもちろんのこと、ASEAN、アフリカなど色々なところに行ってみると、どこでも水で苦労している。飲料水について当然苦労しているが、排水処理も技術が乏しくひどい状況になっている。このような現状を踏まえ、海外に我々の技術を提供することによって、人々が生活するための水の確保、特に飲料水の確保をやっていきたいという強い思いがあった。そのためには、やはり資本が必要だということで三菱レイヨンへの譲渡、バトンタッチをさせていただいた。

水のビジネスを始めてずっと考えていることは、地球は生きていくということ。人間であれば、生きていくなら血液の循環が必要。地球にとってその血液は何だろうと考えると「水」しかないと思っている。私の持論であるが、10年以上前から異常気象が当たり前になる時代がくるのではないかと考えていた。道路や建物をコンクリートで覆い、雨が降っても地下に浸透せず、水の循環がおかしくなっている。ある地域では豪雨で苦しみ、ある地域では砂漠化が進む。血液である水の循環がうまくいっていないから異常気象が起こっていると

私は考えている。これを何としても改善しなければならぬという思いで環境問題を真剣にとらえて、ウェルシィを創業した29年前から「地球環境の向上」を目指し、これを社是に掲げてやってきた。さらに海外の水不足に何とか役に立ちたいという強い思いでやっている。2025年頃には40億の人が水不足で困る時代が来ると言われている。そういう意味でも微力ではあるが、何とかお手伝いしたいという強い思いを持って取り組んでいる。

#### 牧野 正剛 氏

アースサポート株式会社 常務取締役

(尾崎俊也氏代理)

尾崎の受賞に際しての思いを2点ほど伝えさせて頂く。

1点目は、「環境力」大賞の12の評価項目が常日頃意識している内容であったこと。今回、自己評価をすることにより、改めて自分自身の意識付けができた。また、会社の方向性がこの賞を通じて客観的に評価されたことを、素直に嬉しく思い、感謝している。

2点目は、今回の受賞を社員が仕事の励みになると言ってくれたこと。弊社の仕事は廃棄物の処理やリサイクルを行うことであり、経営層、廃棄物に触れる現場職、お客様に接する営業職は、環境に貢献していることを実感しているが、事務職は日常業務が環境に貢献していることを実感にくいという一面があり、そのような声を聞いている。今回、自分自身が受賞したことよりも、今回の受賞を社員が喜び、誇りと今後の励みになると言ってくれたことが、何よりも嬉しいと感じている。

